

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971100126		
法人名	社会福祉法人 芳寿会		
事業所名	グループホーム回生荘		
所在地	山梨県都留市境36		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和4年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心」を大切に、入居者一人一人に寄り添い、心を込めたケアをモットーにしています。退所の際に「回生荘に来てよかった」と言ってもらえるようなケアを目指して、なじみの関係を重視し、入所から看取りまで望む生活を実現できるよう心がけています。住居内では庭やテラスに自由に入出し、畑や野菜の収穫を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方が、この生活が楽しく張り合いが持てるように、食事づくりや野菜づくり、雑巾縫いなど一人ひとりに添った役割のある生活が送れるようにしていました。庭は、フキノウや桜が楽しめる自然豊かな環境です。職員には年代の近い方もおり、寄り添う支援があると感じます。感染予防、拘束についてもしっかり研修を行い、安全安心の毎日がありません。コロナが落ち着き安全な生活が地域と持てることを望みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やご家族の皆様、および職員等が見やすい所に大きく手作りの理念を掲示して、いつでも目に入るようにしている。 ミーティングや少し手の空いた時などに理念に基づくサービスの提供について話し合いをしている。	理念は誰もが見やすく確認できる工夫をされていました。職員間では、研修等で不適切な支援が行われていないか、利用者に寄り添っているか検討され、話し合いがもたれていました。日常的にも振り返りを行っていました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を利用者と一緒に隣の家に届けに行っている。 コロナ禍で日常的な交流は制限している。	コロナ禍なので、利用者の安全安心のため、地域との交流は感染予防をしながら行っています。以前は地域の「生き生きサロン」に参加したり、グループホームの行事に参加して頂きました。また近くには保育園があり散歩時に立ち寄り、園児が「折り紙」を持っての訪問があり交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の相談窓口になっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の運営状況や行事等について報告し、勉強会や意見交換の場として活用し、得た情報や意見をサービスの場に還元している。	現在コロナ禍の為会議の開催はされていませんが、書面会議とし、運営状況や事業所内の行事写真を載せたり、職員の勉強会や研修の様子を報告したりしていました。委員からの意見は支援につながるよう検討されていました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議以外でも随時必要に応じて連携を取り、助言や指導を受けている。	市町村との連携は、地域の困りごとや認知症以外の通所、独居の高齢者のデイサービスの利用の受け入れができるかなど、相談したことがありました。また通常サービス以外の際の費用はどうするか等、わからないことについて助言や指導を受けていました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束をしないケアの施設内研修を行ったりして、スピーチロックも含め取り組んでいる。 玄関はシステム上グループホームのみのオートロック解除ができない。居室から庭には自由に出入りできるようにしている。	コロナ禍の為法人としての合同研修は行っていませんが、事業所で事例を出し合い、身体拘束にあたるか話し合いがもたれていました。日常でどんな声掛けがあり、どんな支援をしているか話されていました。責任者も職員に声掛けし、拘束のない支援を心がけていました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やミーティングを利用し、虐待に関する認識を深め、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市町村等で学ばない研修に参加したり、市町村の担当者等に必要時相談したりしている。実際に本人に関する書類を作成する機会もあった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等はその都度十分な説明をし、理解、納得を図っている。いつでも質問や相談には対応できるようにしている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名( )	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の連絡先を提示しており、またご意見箱を設置している。家族や利用者の意見を運営推進会議やミーティング等を利用し検討、反映させている。	アンケートや意見箱を設置していますが、利用者や家族からは、運営に関して要望が聞かれません。利用者の健康管理等については聞かれ対応しています。利用者や家族からの意見は大切に受け止めて、外部にも発信していくと話していました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との関係性を重視し、意見や提案を出しやすい職場環境づくりをしている。日常的に意見や提案を聞いている。職員会議や管理者会議で検討、反映させている。	職員の意見は常に聞き、受け止めて改善につなげていました。日常的な話の中から勤務やサービス支援について話を聞き対応がされていました。デイサービス職員とも協力ができ、勤務体制にも配慮ができていました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年評価を行ない、職場環境・条件の整備に努めている。労働時間の調整や業務内容の精査・見直し、適度な有給休暇の取得等、職場環境・条件の整備をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修情報を提供し、希望に応じて参加させている。法人内部での各委員会からの要望を受け、外部講師を呼んだりして研修を実施している。管理者は介護現場において、各職員にケアの指導や助言をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に他施設の職員と交流を深めている。実習の受け入れをしたり、実習に出かけたりして、自施設のサービス向上の取り組みをしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本とし、本人の困りごとや不安を和らげるような対応や声掛けに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して利用者の介護を任せられるよう、顔の見える関係性を作るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を確認し、入所も含め、色々なサービスを提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒になって食事したり家事を行ったりして支え合って生活する関係を築いている。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族の協力を得ながら、協力して共に本人を支えており、良い関係をつくるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で困難だが、入居者の訴えに応じて外出し、なじみのお店等に出かけるよう努めている。家族の協力も得て、入居者の外出意欲や、懐かしい思いに対して支援をしている。	コロナ禍の為感染予防に注意を払いながら、他事業のデイサービス利用者との交流等行っていました。家族は玄関先で感染予防をして、面会を行っていました。どうしてももの買い物には抗原検査を行い、体調管理をして行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格やBPSDに合わせた関わりをして、入居者同士の関係が良好に保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族とも交流があったり、他施設へ入所された方やその家族の相談や支援も行なっている。入居者自身が他施設の入居者へ面会に出かけたりもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との雑談や言葉から意向の把握に努めている。家族の意向や思いも含めて、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いは日々変化があり真意を汲み取りにくいですが、普段の関わりの中から探ったり、家族の希望から探っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、関係機関と連携を取りながら情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、内容について検討したりして現状を把握している。何が出来るか、どんな役割を担えるかを日々の生活で実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員ミーティング、面会時や日々の会話の中で出た思いや考え、アイデアを反映して介護計画を作成している。	本人の想いは日々異なることがあり、記録ノートの活用や職員の意見を聞き、介護計画につなげていました。介護計画はケアマネージャーが、本人や家族、職員の意見を基に作成されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。介護計画の見直し、モニタリングや再アセスメント等にも記録を活かしている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに合わせて対応しており、そもそも既存のサービスという考えを持っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居者に合わせて、できる事をしてもらい、生き生きとした暮らしができるよう支援している。コロナ禍でなかなか地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に訪問診療の契約を結び、往診してもらっている。入所以前からのかかりつけ医への受診に対しても継続できるよう支援している。	入所時に、本人や家族と医療について話をされ検討していました。事業所の指定医の往診、今までのかかりつけ医の往診、家族が付き添っての通院など、利用者の希望に沿って行っていました。家族との通院時には普段の様子や健康状態が伝えられ、情報交換がしっかりできていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療医に情報を伝え、受診や往診、必要な看護等の判断をしてもらい対応している。訪問してくれた看護師にも情報を伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を行ない、入居者の状態に合わせて医療機関と相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族や本人の考えを尊重し、できる事できない事の説明をして対応している。医療との連携や家族等の支援等できるだけ希望に沿うように対応している。	終末期に向けた話し合いは家族と行い、本人や家族の希望に沿って行っていました。グループホームでは出来ないこともあり、特別養護老人ホームとの連携もできていました。医療的支援は特養と連携ができていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修にて職員の実践力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で防災避難訓練を定期的に行なっている。	事業所は1階にあり、水害の可能性が多少感じられますが、法人の特別養護老人ホームは2階があり、協力体制ができていました。また法人では地域での災害時に高齢者の受け入れや、備蓄の提供も受け入れる態勢ができていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応についての施設内研修を行なっている。一つ一つの声かけや対応を検討したりミーティング等で話し合ったりして改善に取り組んでいる。	個々への尊重については、研修を3か月毎に行っていました。排泄や入浴に関しては同姓介護を基本としていますが、介護者が女性でも、やむを得ず男性が介護する事があります。受け入れられない時は、入浴日の変更などで対応していました。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に声掛けを行ない希望を聞いたり確認したりしている。日常的に本人の希望や自己決定をもとに介護を行なうよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者との関係が悪くならないよう職員が仲介しながら、自分のペースで自由に生活できるよう支援している。利用者優先となるよう業務も定期的に見直している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは本人に確認し気に入ったものを着てもらおうようにしている。家族の協力も得て本人の好みの身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ自力での摂取、自分のペースでの摂取ができるよう支援している。野菜の皮むきや食事の盛り付け等できる事は一緒に行なっている。下膳や食器洗いも一緒に行なっている。	食事を楽しむ事を大切にされ、利用者と食材切りや盛り付けを行っていました。また敷地内で葉物やジャガイモ、インゲンや白菜など多くの野菜を育て、食卓で楽しんでいました。行事には回転ずしやブドウ狩りを楽しんでいます。現在はコロナ禍のため、ドライブ等に出かけたときはテイクアウトで食事に変化をつけていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を準備したり、時間に拘らずにちょっとした物を提供したりして一日の摂取量を確保できるようにしている。食事時間も特に朝食は本人の希望の時間に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導、介助等入居者の状態に応じて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の訴えの無い方にも行動等から尿意便意を察知しトイレ誘導してトイレでの排泄を行なっている。	排泄の自立支援に力を入れ、早めの声掛けを行ったり、立位の困難な利用者にもトイレ利用をしてもらえよう心がけていました。入所時のリハビリパンツ、布パンツ利用数は変わりませんが、トイレで、自分で下着の上げ下げを行えるように支援していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食物繊維の確保、運動等なるべく薬に頼らない排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に確認をして入浴を行なっている。湯温の調整や長湯など、満足できるよう努めている。希望があればいつでも入浴できるよう対応している。	入浴好きの利用者は週4回、拒否される方でも2回は入浴されています。基本は午前中ですが、本人の希望で午後も入浴ができています。安全な入浴が心配な方は2人介助、機械浴が必要な利用者には特養の協力体制もできていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や様子に応じ休息している。衣類や布団の調整、眠る時間等各入居者によってそれぞれ対応している。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の変更時には目的や副作用、用法についても申し送り、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		レクリエーションは個々の入居者の希望に合わせ実施し、参加も自由、その他外出、畑仕事など自由でいきいきとした日々を過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		コロナ禍であまり出かけられていない。他者と会わない場所や、感染対策がしっかりとされている場所には、本人の希望に合わせて出かけることはある。		コロナ禍以前は家族との外出や、独居の方も家の様子を職員と見に行ったりしていました。利用者の希望に沿えるよう感染対策を行って外出を行っていました。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		本人の希望に応じてお金を所持したり、買い物をしたりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		電話が掛けられない方でも職員が代わりにかけて受話器を入居者に渡している。年賀状等手紙のやり取りの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		清潔に保つよう心掛け、穏やかに過ごせるようにしている。		共有空間には利用者の作品が飾られている明るい場所がありました。雑巾縫いをされている利用者の姿もありました。敷地には広めの庭もあり、野菜づくりがみられほっとする空間がありました。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや座敷、テーブル席等思い思いの場所で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		家具や家具の配置等、本人や家族と相談しながら生活しやすいようにしている。		筆筒やテーブル等日常使っていた物、希望されるものを持ち込み、今までの生活を大切にされていました。家族との思い出を大切にしていました。食事時の茶わんや湯飲み、箸なども今まで使っていたもので対応されていました。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		やりたいことを自由にやるリスク等を家族に十分に説明し、納得してもらい自由に生活してもらえるようにしている。可能な限り安全に配慮し、無理強いはいしないで、できる事はやってもらうよう支援している。		